

平成三十一年度入学者選抜試験  
個別学力試験問題(前期日程)

国 語

注意

- 一、問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
- 二、問題紙は十三ページ、解答用紙は一枚です。指示があつてから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入してください。
- 三、答えはすべて解答用紙の所定のところに記入してください。
- 四、解答用紙は持ち帰ってはいけません。
- 五、試験終了後、問題紙は持ち帰ってください。

一

次の文章は、筆者が「言葉を理解するとはいかなることか」という問題を考えるにあたって、「ゲシュタルト崩壊」という現象（たとえば、ある一つの漢字をじつと見つめ続けていると、突然文字が単なる線の寄せ集めのように見えてくる現象）に関わる哲学者ウイトゲンシュタイン（一八八九―一九五二）の論考を取り上げて考察している書物の一部である。これを読んで後の問いに答えよ。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、  
公開しません。)

(古田徹也『言葉の魂の哲学』による。なお、本文の一部を改変した。)

(注1) 「x」を「x」や「x」に置き換える——いずれの記号も記号論理学における人工言語において、「xではない」を表す。

(注2) 「文字禍」と「チャンドス卿の手紙」——「文字禍」は中島敦(一九〇九—一九四二)の、「チャンドス卿の手紙」はオー  
ストリアの詩人、批評家であるフリーゴ・フォン・ホーフマンスタール(一八七四—一九二九)の作品。いずれも主人  
公がゲシュタルト崩壊と考えられるような体験や、自分を取り巻く世界が現実のものとは感じられないという離人症  
的な体験をする。

問一 傍線部1～4を漢字に書き改めよ。

問二 傍線部A「これらの言葉を真に理解していないと判断される」とあるが、ここでこのように判断されるのはどのような理由によるか、本文中の語句を用いて答えよ。

問三 傍線部B「ある意味では以前と同じなのに、ある意味では変化している」という事態」とは、どのような事態か、本文中の語句を用いて説明せよ。

問四 空欄C・Dに入れるのに適当な語句を、本文中から選んで答えよ。

問五 傍線部E「問題を解消することができる」とあるが、筆者はその問題をどのように解消できると主張しているか、本文中に即して述べよ。



二

次の文章を読んで、問いに答えよ。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(読書猿『問題解決大全』による。なお、改行を一部省略した。)

問 「自由」であるためには、あなたはどのようにすればよいと考えるか、本文における「自由」の意味に即して、具体例を挙げながら述べよ。(解答は解答欄をほぼ満たす程度とすること)

下書き用

The form consists of a large rectangle with a solid border. Inside, there are seven vertical columns separated by dashed lines. The columns are of equal width and height, providing a structured space for the student to write their answer to the question.

三

次の文章は、『源氏物語』紅葉賀巻の一節である。源典侍は、年配の内侍で、恋多き女性である。その相手としては、頭中将、源氏の君、以前より関係があったと思われている修理大夫すのりのおおきみなどがいる。この場面は、源氏の君が源典侍のところに忍んでいることを、頭中将が知ったことからはじまる。これを読んで、問いに答えよ。

頭中将は、この君の、いたうまめだち過ぐして、常にもどきたまふがねたきを、つれなくて、うちうち忍びたまふ方々多かめるを、いかで見あらはさむとのみ思ひわたるに、これを見つけたる心地いとうれし。かかるをりに、すしおどしきこえて、御心まどはして、「懲りぬや」と言はむと思ひて、(注1) たゆめきこゆ。(注2)

風冷やかにうち吹きて、やや更けゆくほどに、すこしまどろむにやと見ゆる気色なれば、(注3) やをら入りくるに、君は、とけてしも寝たまはぬ心なれば、ふと聞きつけて、この中将とは思ひよらず、なほ忘れがたくすなる修理大夫(注4)にこそあらめと思すに、おとなおとなしき人に、かく似げなきふるまひをして、見つけれんことは恥づかしければ、「あな、わづらはし。出でむなよ。蜘蛛(注5)のふるまひは、しるかりつらむものを。心憂くすかしたまひけるよ」とて、直衣なほしばかりを取りて、屏風びんぷうのうしろに入りたまひぬ。中将、(注6) をかしきを念じて、引きたてたまへる屏風のもとに寄りて、ごほごほとたたみ寄せて、おどろおどろしう騒がすに、内侍は、ねびたれど、いたくよしばみなよびたる人の、さきさきもかやうにて心動かすをりありければ、ならひて、いみじく心あわたたしきにも、この君をいかにしきこえぬるにかと、わびしさにふるふふるふ、つと控へたり。(注7)

〔源氏物語〕紅葉賀〔より〕

(注1) もどく——非難する。

(注2) たゆむ——油断させる。

(注3) とく——安心する。

(注4) 修理大夫——修理職の長官。

(注5) 蜘蛛のふるまひ——『古今和歌集』にある衣通姫の歌「わが背子が 来べき宵なり ささがにの 蜘蛛のふるまひ かねてしるしも」を踏まえている。この歌では、蜘蛛の行動を恋人の来訪を予兆させるものとしてとらえている。

問一 『源氏物語』の作者を、漢字で答えよ。

問二 傍線部A「やをら入りくる」、B「屏風のうしろに入りたまひぬ」、C「つと控へたり」は、誰の動作を指しているか、次の記号の中からそれぞれ該当するものを選択せよ。

ア. 源氏の君

イ. 源典侍

ウ. 頭中将

エ. 修理大夫

問三 傍線部ア「これを見つけたる心地いとうれし」とあるが、なぜ頭中将はこのような気持ちになったのか、説明せよ。

問四 傍線部イ「おとなおとなしき人」とは、誰のことを指しているのか、答えよ。

問五 傍線部ウ「をかしきを念じて」について、①「をかしきを念じて」を口語訳せよ。②頭中将は、なぜ「をかし」と感じたのか、その理由を説明せよ。

四

次の文章を読んで、問いに答えよ。(設問の都合で送り仮名・返り点を省いたところがある。)

漢時、会稽句章人、至東野還、暮不及至家。見路傍小屋燃

火、因投宿止。有一少女、不欲与丈夫共宿、呼隣人家女自伴、

夜共弹箜篌。问其姓名、女不答。弹弦而歌曰「连绵葛上藤、一綏

復一綏。欲知我姓名、姓陳名阿登。」明至東郭外、有売食母在

肆中。此人寄坐、因說昨所見。母聞阿登、驚曰「此是我女、近亡、

葬於郭外。」

(『搜神後記』による)

(注1) 会稽句章——現在の中国浙江省。

(注2) 箜篌——ハープに似た弦楽器の名、両手でかき鳴らす。

(注3) 肆——品物を売る店。

問一 傍線部A「因投宿止」について、そのような行動をとった理由を補いながら口語訳せよ。

問二 傍線部B「不<sub>レ</sub>欲<sub>テ</sub>与<sub>ニ</sub>丈夫<sub>ニ</sub>共宿<sub>ト</sub>」をすべて平仮名で書き下し文にせよ。現代仮名遣いを用いてもよい。

問三 傍線部C「此人」は誰を指すか、文中から抜き出して答えよ。

問四 傍線部Dについて、なぜ「母」は「驚」いたのか、本文の内容を踏まえて分かりやすく説明せよ。